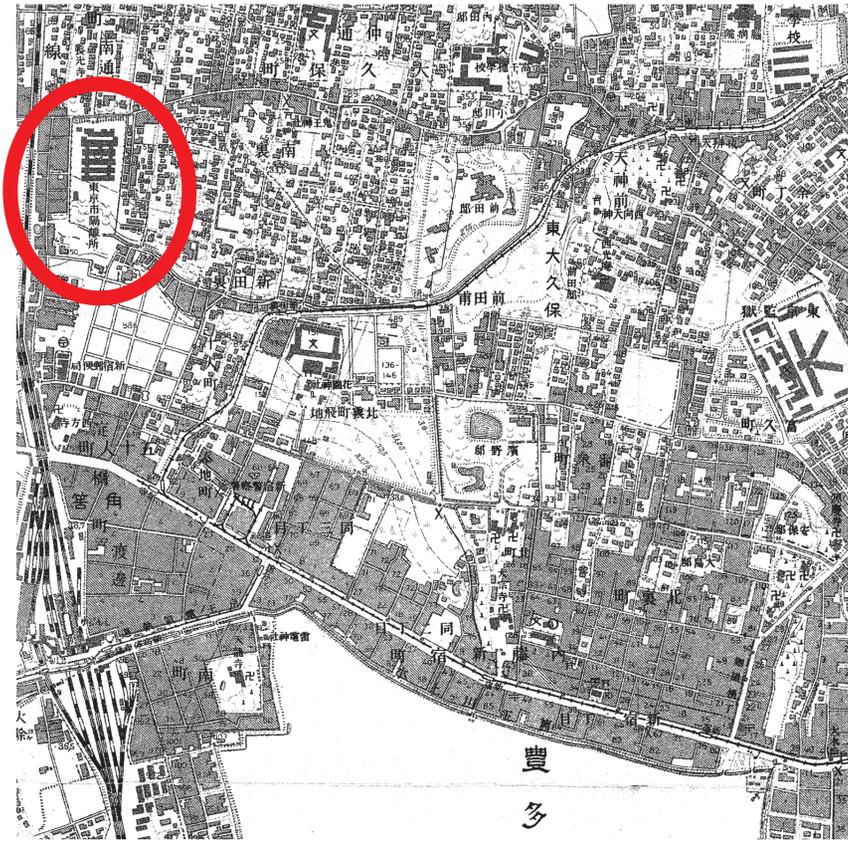


地図で見るハイジア・大久保病院と歌舞伎町 (2)

《大正時代の地図》

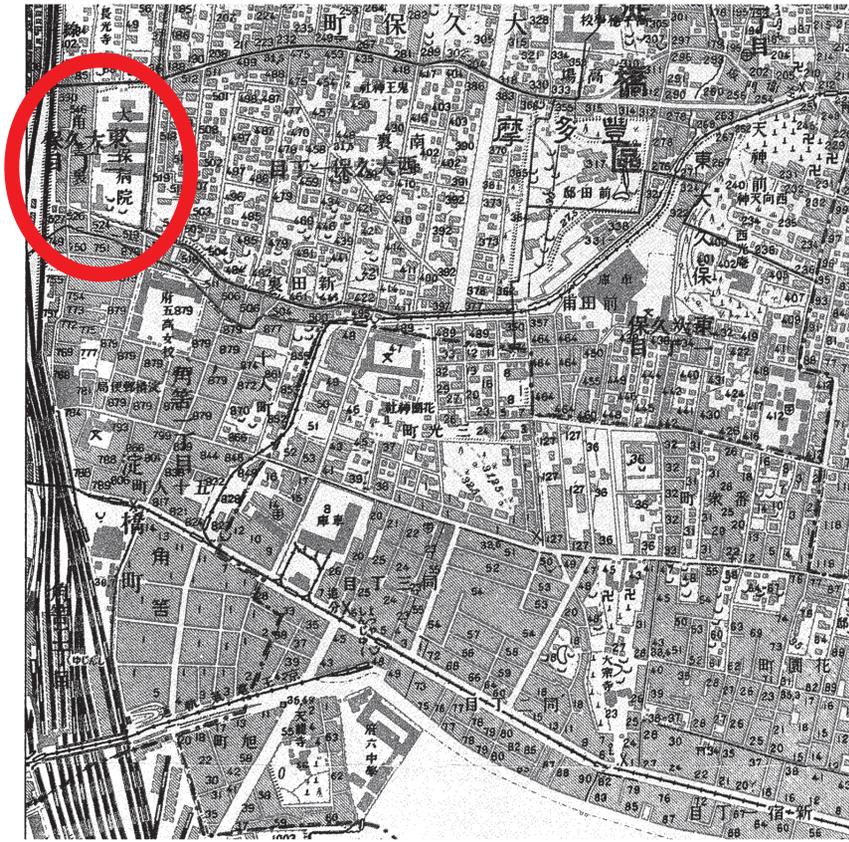
【大正5年(1916年)当時の地図】



(出典)「淀橋・大久保の地形図」「地図で見る新宿区の移り変わり 淀橋・大久保編」(新宿区)

《昭和・戦前の地図》(1)

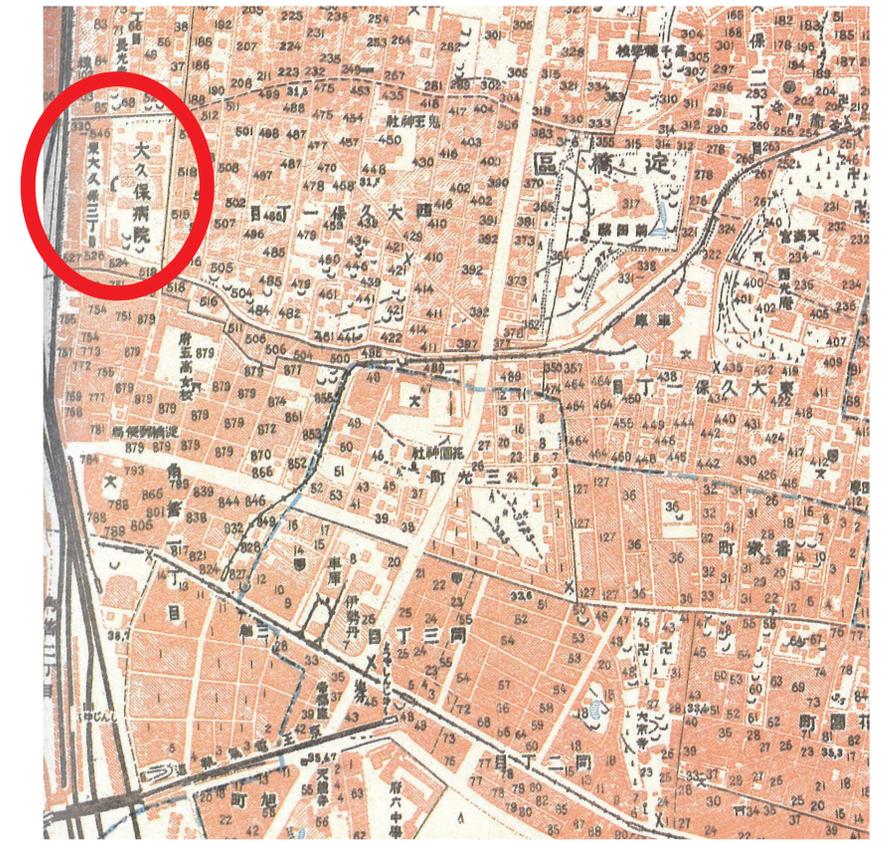
【昭和3～4年(1928～29年)当時の地図】



(出典)「淀橋・大久保の地形図」「地図で見る新宿区の移り変わり 淀橋・大久保編」(新宿区)

《昭和・戦前の地図》(2)

【昭和12年(1937年)当時の地図】



(出典)「淀橋・大久保の地形図」「地図で見る新宿区の移り変わり 淀橋・大久保編」(新宿区)

【地図】

- 大正5年当時の歌舞伎町地域の地図(開業37年目)

【病院】

- 避病院は大正3年に廃止され、改築の上「隔離所」(伝染病患者の家族等、感染の疑いのある者を隔離収容する施設)となりました。

【地域】

- 明治44年に尾張屋(峯島家)が大村家から土地を購入し、森を伐採・池を埋立て、住宅地として開発し、「大村の森」は「尾張屋の原」と呼ばれるようになりました。池の埋立に際し、大正2年に上野不忍池から弁財天を勧請しました。
- 市電も明治36年に開通(新宿追分～半蔵門間)しました。
- 明治39年から大正14年の間、新宿駅には甲武鉄道の電車線のホームが二つ(甲州口と青梅口)あり、一駅で二つのホームに電車が停車していました。



弁財天(歌舞伎町公園に隣接)

【参考】歌舞伎町由来(「わが町新宿」(田辺茂一著)から抜粋)

最初は鬱蒼とした山林であった。それが、九州大村藩の城主大村子爵の所有地だったところから、私産は大村の山(原文ママ)と呼んでいた。明治の終わり、それが伐採されて、原っぱになった。やがて大正になり、尾張屋銀行峯島茂兵衛氏の所有に帰したため、私たちは大村の山を、こんどは尾張屋の原と呼ぶようになった。(中略)

この大村の山は、現在の歌舞伎町一帯だが、そのころは、鬱蒼とした大木が茂っていて、山鳥や山犬がいた。山の真ん中に池があり、その池のまた真ん中に島があり、小さな舟がもやっていた。

【地図】

- 昭和3～4年当時の歌舞伎町地域の地図(開業49～50年目)

【病院】

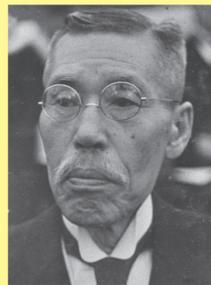
- 隔離所は関東大震災により崩壊しましたが、帝都復興計画に基づき「五大市立病院」(軽費又は無料で診察を行う五つの普通病院)の一つとして再建され(昭和4年)、普通病院(内科・外科等)に伝染病棟が付設する形で開設されました。なお、この時の本館建物はハイジアに建替えられるまで、使用されてきました。

【地域】

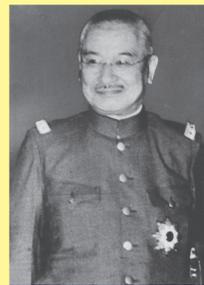
- 壺川は昭和初期に暗渠化されました。明治通りは花道通りの交差点(新田裏)までしか整備されておらず、また靖国通りも拡幅されていません。
- 池の埋立地(旧コマ劇場の所)に、峯島家からの寄付を受け、「府立第5高等女学校」(現都立富士高校)が開校(大正9年)し、女学生も通学する街となりました。
- 現歌舞伎町2丁目周辺は、震災後、閑静な住宅地として発展し、総理大臣も住む街でした。このほか、牧野伸顕や床次竹二郎などの政治家も住んでいました。



岡田啓介(31代首相)の肖像
(出典) 国立国会図書館デジタルコレクション



平沼騏一郎(35代首相)の肖像



阿部信行(36代首相)の肖像

【地図】

- 昭和12年当時の歌舞伎町地域の地図(開業58年目)

【病院】

- 昭和14年3月に伝染病棟を廃止し、完全に総合病院化されました。

【地域】

- 大久保町は、昭和7年に東京市に編入され、東京市淀橋区東大久保3丁目になりました(大東京市の誕生。それまでは「東京市外」と記されていました。)
- 歌舞伎町地域の道路インフラは、この時期にほぼ整備されました。《明治通り》⇒開通(昭和7年)《靖国通り》⇒拡幅(昭和7年)。《大ガード》⇒拡幅(昭和11年)
- この頃から、デパート・映画館等が次々とでき、東口が繁華街となっていました。市電も追分から新宿駅前まで延伸されました(大正11年)《タカノフルーツパーラー》⇒改築(大正15年)《紀伊屋書店》⇒開業(昭和2年)《三越》⇒移転(昭和5年)。移転前の建物は二幸に。《伊勢丹》⇒開業(昭和9年)。翌年隣接のほてい屋を買収《武蔵野館》⇒開業(大正9年)《帝都座》⇒開業(昭和6年)

昭和10年頃の新宿大通り(絵はがき)



(所蔵) 新宿歴史博物館